

平成30年 **3**月の**優しさ**通信



誤嚥性肺炎から高齢者守れ 気管詰まらせ 細菌が繁殖

料理・発声・工夫でリスク減

- ・肺炎入院患者で、70歳代の7割、80歳代の8割以上は誤嚥性肺炎だそうです。
- ・筋力が低下して、のどの内側で気管を閉じる弁の働きが悪くなり、食べ物などの一部が誤って気管に入る誤嚥を繰り返すと肺炎の危険が高まります。
- ・口内細菌や、のどや鼻にいる細菌と一緒に入ると炎症が起きます。就寝中、口が開きっぱなしで粘っこくなった唾液を飲み込むのもリスクを高めます。
- ・発声は、呼吸のリズムと筋肉の動きが連動して動き、のどが鍛えられます。唾液が出て口の中もきれいになります。
- ・座る時には背もたれにもたれず体をまっすぐにすると、体幹が鍛えられ筋肉を保てます。
- ・飲食時は、あごを引くと気道が開きっぱなしになりにくいので誤嚥防止に役立ちます。

(2018年2月26日 日本経済新聞記事から抜粋引用)



認知症恐れ 4.6万人 昨年3～12月 75歳以上の運転者

- ・2017年3～12月、認知症の恐れがある「第1分類」と判定された人は46,911人。
- ・このうち3割が医師から「認知症」と診断されて運転免許が取り消しとなったり、免許を自主返納したりして運転を断念しました。
- ・認知機能検査で第1分類と判定された場合、医師の診断を義務化。
- ・検査を受けたのは計172万人強。

(2018年2月27日 日本経済新聞記事から抜粋引用)





今月の福祉用具－移乗関連用具

その4 移乗動作で使用される用具

回転盤

- ・座位移乗では、身体の向きを変えることも必要です。
- ・回転盤を座面に敷いて移乗者の身体の向きを容易に変えるようにすることができます。
- ・移乗する人を回転盤の上に立たせて、支えながら容易に向きを変えることもできます。移乗者を正しく回転盤の上に乗せるためには、一時的に回転しない状態で両足に乗せることが必要で、介助者が片足を回転盤上に乗せて固定した状態で移乗介助を行います。

(参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキストより)

